わげんあいご　びてんぎょうし
和顔愛語・美点凝視　校長室からご家庭へ　R2.１２.４（金）文責：百田

人権とは？誰の足も踏まないこと。誰にも自分の足を踏ませないこと。

日頃から学校生活のすべてにおいて、「思いやり」と「助け合い」を心がけよう、「悪いところではなく、良いところ」を見つけてほめ合おう、「されていやなこと」は人にしない、人に言わないようにしよう、などとお互いに呼びかけています。それをみんなで再確認する機会としての人権週間が１２月４日から始まりました。

今年は、人権集会の代わりに給食の時間に人権動画を流しました。その中で、全国中学生人権作文コンテスト中央大会審査委員長の落合恵子さんのお話を５分間ほど見てもらいました。以下はその主な内容です。

質問１:人権ってなあに？

人権とは、

誰の足も踏まないこと

誰にも自分の足を踏ませないこと

この足とは、具体的な足ではなく、その人自身、あるいはその人の存在すべてのことを言います。

人権とは、その約束と実行の上に花開くものです。

一番大事なことは「実行」であり「生活化」、生活の中にとにかく溶け込ませること です。

質問２：私は、僕は今まで誰にも足を踏まれたことはなかったか？

私は、僕は今まで一度も誰の足を踏んだこともなかったか？と、自分自身を振り返ってみましょう。

足、踏まれたことあったよな。

同時にたぶん、十分知らずに、誰かの足を踏んでしまったこともあったと思います。

また、人権を軸に考えてみると、

１人の人間の中に、『被害性』足を踏まれる側の自分と、『加害性』誰かの足を踏んでしまう自分がいる。

ということをしっかり考えていきたいと思います。

被害者だけでもなく、加害者だけでもない、どちらにもなりうる自分がいます。

差別を作ってきたのが一人一人の人間であるのなら、

差別を作ったものを再生産してきたのが私たち一人ひとりの人間であるならば、

それをなくすことができるのも私たち一人ひとりである、と考えられます。

もう一度自分に聞きましょう。

私は誰かから足を踏まれたことがありますか？

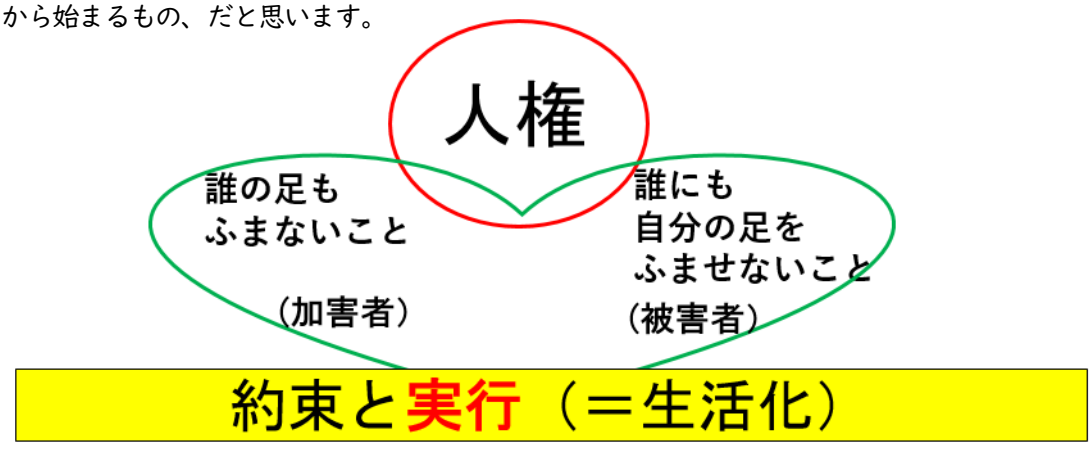
私は誰かの足を踏んだことがありますか？

人権とは、

あなたがあなたを十分に生きること

私が私を十分に生きること

そこに花開くもの、と言えます。

図式化すると、このようになります。自分が受け取った感想を大事にしてください。

人権とは、こう読むべき、こう見るべきという「べき」からとても自由なあなたが感じること、あなたが考えること、そこから始まるもの、だと思います。